

2010年3月3日プレスリリース

参照番号：1299

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1299>

ISO 26000 を最終国際規格案へと進める決定を確認

社会的責任に関する指針となる将来の ISO 26000 規格は、ISO の各国代表メンバー及び参加リエゾン組織の支持が十分なものであるとして、最終国際規格案（FDIS）へと進めることが確認され、もうひとつの重要な開発段階を経た。これは、ISO 国際規格として発行される前の ISO 規格開発の最終段階となる。

2 月中旬、ISO の各国標準化機関（NSB）メンバーが投票を行い、国際規格案（DIS）を FDIS の段階へと移行させることに賛成した。一方、社会的責任に関する ISO 作業部会（ISO/WG SR）に参加している 42 の国際リエゾン組織からの支持についても評価するため、WG リーダーシップは、正式に FDIS の段階に移行する前にこれら組織の見解やコメントを検討した。

リエゾン組織は、企業、市民団体 NGO、消費者又は労働者を代表する各団体によって構成され、政府間及び非政府系のグループを含む。これらの団体は投票権を持っていないが、積極的にかつ直接的に ISO 26000 の開発に参加し、文書に対して意見を述べている。

2 月中旬に行われた賛成投票の後、ISO/WG SR のリーダーは、現在の文書を ISO/FDIS 26000 として登録するのに必要な支持は得られていると結論付けた。

この決定が正式に確認されたことで、ISO/WG SR は次に、さらに多くのコンセンサスを得るため、また文書の質をなお一層高めるために、投票の過程で ISO メンバーやリエゾン組織から受理された 2,650 のコメントへの対応に焦点を当てることになる。

作業部会の原案起草タスクフォースは、この目標を念頭に置きつつ受理したすべてのコメントを検討し、2010 年 5 月デンマークのコペンハーゲンで開かれる次回会合における ISO/WG SR 専門家の議論のために特定されたキートピックに関する今後の対応案を作成する。

会合後、コペンハーゲンで達した合意に基づき、新たな修正された文書は最終原案として仕上げられる。この文書は FDIS として 2 か月の投票に付され、FDIS 投票で承認された場

合、ISO 26000 は 2010 年末までに国際規格として発行される。

ISO/WG SR のメンバーたちにその決定及び今後の方針を発表したリーダーシップは、次のように宣言した。

「提出された貴重なコメントにお礼を申し上げるとともに、受理されたすべてのコメントは、更なるコンセンサスを得るために、コペンハーゲンにおいて公正かつ公平な扱いが与えられることを強く期待している。これはつまり、賛成投票をした標準化機関（NSB）によって提出されたものであろうが、反対投票をした NSB によって提出されたものであろうが、あるいはリエゾン組織によって提出されたものであろうが、すべてのコメントを公正かつ公平な扱うことを意味する。」

ISO 26000 は、主要なステークホルダー・グループの専門家の中で得られた国際的なコンセンサスに基づき、調和のとれた、地球規模に即した指針を提供し、社会的責任の実施を世界的に推進する。ISO 26000 の指針は、既存の公的セクター及び民間セクターの社会的責任に関するイニシアティブによって開発されたベストプラクティスを活用して、これらのセクターにおける大規模な組織と小規模組織の両方にとって役立つよう意図されている。

注：ISO/WG SR は、ISO メンバー（NSB）及びリエゾン組織の専門家で構成されている。メンバーは、各 NSB 最大 6 名の専門家、各リエゾン組織 2 名の専門家に限られている。合計で、作業グループは 94 の ISO メンバー国及び 42 のリエゾン組織から 436 名の専門家及び 195 名のオブザーバーから成る。

- ISO 26000 及び社会的責任に関する ISO 作業部会の詳細については、専用の Web サイト www.iso.org/sr を参照してください。この Web サイトには、ISO の SR イニシアティブの背景について説明した文書、作業の進捗状況及び実施方法に関する文書及びプレスリリース、WG SR のメンバーシップ及び構成、ISO 26000 の開発に参加する方法、ニュースレター、開発スケジュール、FAQ、問い合わせ先などの情報が掲載されています。これらの情報の多くは、複数の言語で入手することができます。
- DIS を含む作業文書は、www.iso.org/wgsr で入手することができます。